

# 《ネストレ-アーラント版聖書本文とは？》

《現代版聖書のルーツより抜粋》

[PDFファイル](#)

■現代版聖書は、UBS版聖書本文、ネストレ-アーラント版聖書本文を原文または底本としています。

## ●ネストレ-アーラント版本文はどこから？

ネストレ-アーラント版本文について見てみましょう。

当初のネストレ-アーラント版聖書本文について、ケン・マツ博士は、こう述べています。



「1898年、エバハルト・ネストレという人物が『ギリシャ語新約聖書』の第一版を創りました。それは、ティッシェンドルフ（シナイ写本発見者）の写本と、ホートおよびウェストコットの作った聖書本文RVと、ウェイマウスの本文から成り立っていました。



（1901年、ネストレはウェイマウスの本文を、1894年のペルンハルト・ヴァイスの本文で置き換えました）」

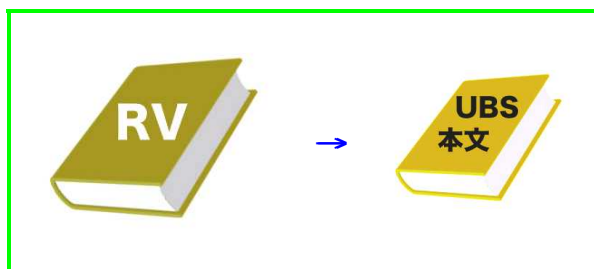
（ケン・マツ博士 [E-4](#)参照）

## ●UBS版本文はどこから？

次に、UBS版聖書本文について見てみましょう。

UBS聖書本文の編集者ブルース・メッツガーはこう述べています。 ([E-2](#))

「**UBS**ギリシャ語新約聖書を作成した国際委員会は、ウェストコットとホートの聖書本文 (RV) をその土台の本文として採用しただけでなく、彼らの方法論にも従った…」



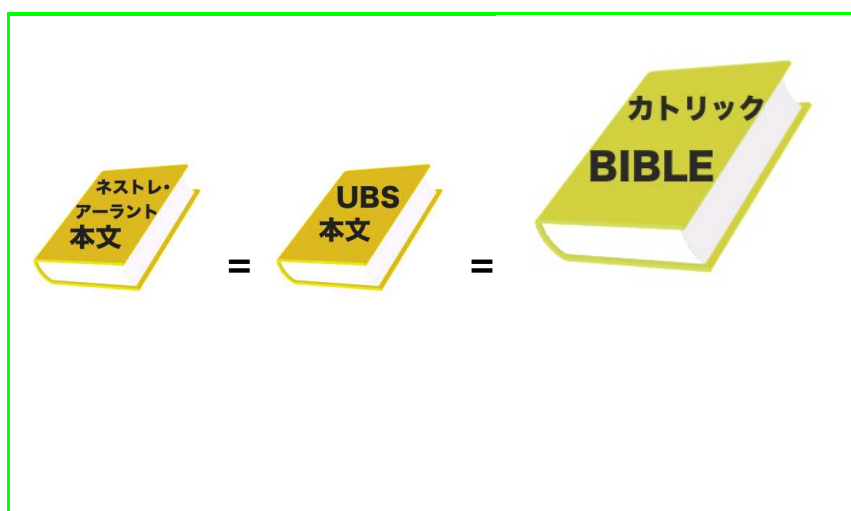
このように、**UBS**版聖書本文は聖書本文**RV**に由来していることがわかります。

● **統一された同じ本文**

現在、**ネストレ-ア-ラント**版聖書本文も**UBS**版聖書本文も**同じ本文**です。 (**E-3** **E-4** **E-5** 参照)

「『ネストレ-ア-ラント版聖書本文』第27版（2006年発行）...それは、『UBS版聖書本文』（聖書協会世界連盟 United Bible Societies）第4版と**同じ本文**です。

これらは、**ESV, NIV, NASB, HCSV**聖書、および、新たな**カトリック**の聖書などの**現代版聖書**が土台としている『読み方』および本文です」



(ウィル・キニー, "[Undeniable Proof the ESV, NIV, NASB, Holman Standard, NET etc. are the new "Vatican Versions"](#) **E-5**)

『ネストレ-ア-ラント版聖書本文』には、こう書かれています。 (**E-4**)

「1955年、K.アーラントは、M.ブラック、B.M.メッツガー、A.ウィグレン、およびC.M.マルティニとともに『ギリシャ語新約聖書』を作成するための編集委員会に参加するよう招かれた。それは、数々の選択された箇所に関する研究資料付きのギリシャ語本文であり、世界の聖書翻訳者たちが利用するために意図されたものである（第一版:1966年、第二版:1968年）。

『ネストレ-アーラント版聖書本文』および『UBS版聖書本文』の二つの版の作業は、しばらくの期間、平行して行われた。

その結果、『ネストレ-アーラント版聖書本文』第26版（1979年）と、『UBS版聖書本文』第3版（1975年）は、土台となる同じ本文を共用した。

この二つの聖書本文によって共用された本文は、世界各国の聖書協会によって採用された。

そして、バチカン(ローマ教皇庁)と聖書協会世界連盟(UBS)との間での協定に従って、この本文は、彼らの監督の下で作成される新たな翻訳聖書および改訂版の土台として用いられている。

このことは、異なる宗派間での関係に関して、意義深い一歩である」



『ネストレ-アーラント版聖書本文』第27版（2006年）,p.45

以上のことから、現代版聖書が、おおむね、『ウェストコットとホートの聖書本文（RV）』に由来していることがわかります。

### ● 現代版聖書の編集者たちとは？

また、これらの本文を編集したのは、K.アーラント、M.ブラック、B.M.メッツガー、A.ウィグレン、およびC.M.マルティニでした。

彼らは、こういう人物でした。（E-2）

### 《現代版聖書の編集者たち》



・ 彼は、エーオが五書を書いたのではないし信じていません

- ・彼は、**レヴィ**が五首を唱えたのは**ない**と信じていました。
- ・彼は、旧約聖書は、「**神話と伝説**と歴史」の混合物であると信じていました。
- ・彼は、ノアの時代の世界規模の洪水記録は**誇張されたもの**だと信じていました。
- ・彼は、『ヨブ記』は**民話である**と信じていました。
- ・彼は、エリヤやエリシャの奇跡の記述には、「**伝説的な要素**」が含まれていると信じていました。
- ・彼は、ヨナ書の記述は『**伝説**』だと信じていました。
- ・彼は、『ダニエル書』には奇跡的な預言は含まれて**いない**と信じていました。
- ・彼は、『牧会書簡』はパウロが書いたのではないと信じていました。
- ・彼は、『ペテロの第二の手紙』はペテロが書いたのではないと信じていました。
- ・以上のことはすべて、『Reader's Digest Condensed Bible』の脚注で見出すことができます。これは**メッツガー**が編集した聖書です。また、『New Oxford Annotated Bible』（**メッツガー**が共編者）の中でも見出すことができます。
- ・彼は、**外典を含み**、エキュメニカルで**リベラル**な聖書『**NRSV**』の編纂者でした。彼はそれを**ローマ法王**に贈呈しました。
- ・彼は、『ヘルマスの牧者』『クレメントの手紙』などの**外典を靈感されたもの**とみなしました。
- ・彼は、**不可知論者**（神の存在は知り得ないとする）エールマンとの**共著者**でした。（**E-2**）
- ・彼は、**聖書の逐語靈感を否定**しました。
- ・彼は、**エキュメニカル**な新たな正典聖書（カトリックの数々の**外典を含む**ことになるもの）を**受け入れる**ことにより、キリスト教の**すべての教派**が一つの『体』に**統合される**ことを望みました。（クルト・アールラント著『新約聖書正典の問題』pp. 6,7,30-33）
- ・彼は、**リベラル派**であり、**聖書の各書の正典性を疑いました**。
- ・彼は、**聖書を神のことばとは信じませんでした**。
- ・彼は、『Peake's Commentary on the Bible』の共同編集者（1982年）でした。この聖書は、キリスト教の**根本教理に大胆に反対する**書であり、編集者たちは**聖書の無謬の靈感も、摂理的保持の教えも否定**しています。
- ・彼は、**進化論**ほか、**カトリック独自の数々の教義**を推し進める**カトリック**の枢機卿であり、**イエズス会**の会士でした。
- ・彼は、『**ニューエイジ、一つの世界宗教**』を推進させるべく世界中から100人を越える**宗教指導者たち**から成る**統合会議**を招集しました。
- ・彼は、**すべての教団および宗教をカトリック的統合へ導こうとするエキュメニカル運動**および**統合運動推進の急進派**でした。

#### ■ブルース・メッツガー

#### ■クルト・アールラント

#### ■マシュー・ブラック

#### ■カルロ・マルティニ

つまり、これらの現代版聖書の編集者たちは、

- 【聖書の逐語・無謬の靈感を否定し、神のことばと信じない】
- 【不可知論者との共著者である】
- 【キリスト教の根本教理に大胆に反対する】
- 【カトリック的統合に向けてエキュメニカル運動を推進する】人々であり、

彼らの思想・信念は、こうでした。

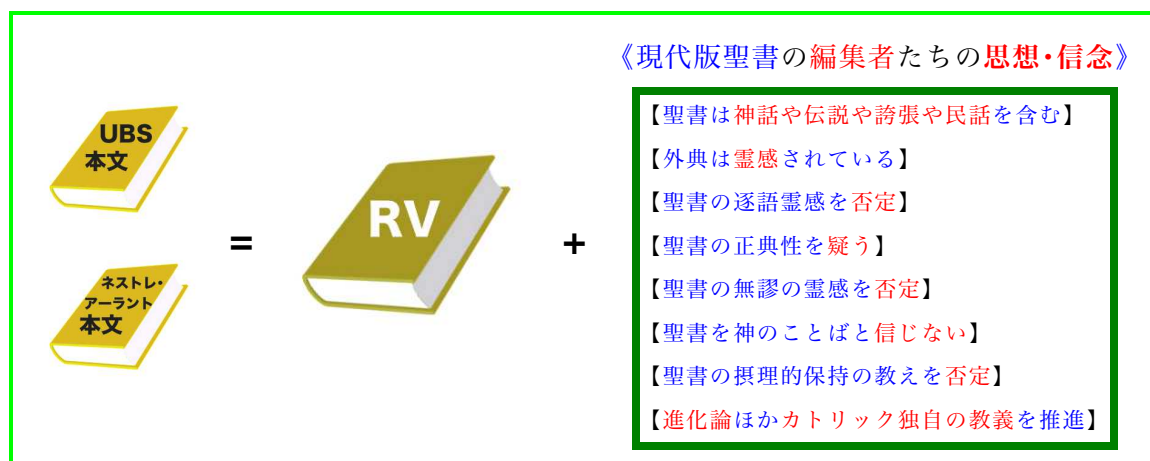
【聖書は神話や伝説や誇張や民話を含む】 ・ 【外典は靈感されている】

【聖書の逐語靈感を否定】 ・ 【聖書の正典性を疑う】

【聖書の無謬の靈感を否定】 ・ 【聖書を神のことばと信じない】

【聖書の摂理的保持の教えを否定】 ・ 【進化論ほかカトリック独自の教義を推進】

このような人々から成る委員会での『話し合い』によって現代版聖書の原文（底本。ネストレーアールント版/UBS版聖書本文）が編集されて作られ、その原文が翻訳されて世界各国の聖書が作られています。



■ この聖書本文が『何に由来しているか』を知ることは確かに重要ですが、『どういう思想や信念を抱いた人々の手を経て作られてきたか』を知ることも重要です。なぜなら、彼らはそういう思想や信念を込めて、自分たちが好ましいと思うように手がけたはずであり、そうして出来上がった作品（聖書）は、必然的に彼らの思想や信念が反映されたものとなっているからです。

(聖書の歴史 E-8 『現代版聖書はどこから？』より抜粋)

★続きは、[聖書の歴史 E-9](#) 『[聖書本文RVはどこから？](#)』をお読みください。

---

《[ネストレ版/UBS版聖書に関わった人々](#)》 《[オリゲネスとは？](#)》 《[エウセビウスとは？](#)》

[ネストレ-アーラント版/UBS版聖書本文の検証](#) 《[聖書協会UBSとは？](#)》

《[UBS版聖書本文とは？](#)》 《[キリスト教界でほとんど知られていない事実](#)》

[聖書の歴史](#) [目次](#) [聖書のホームページ](#) [TR 新約聖書](#)

[選択カテゴリにジャンプ!](#)

[利用規約](#) Copyright C. エターナル・ライフ・ミニストリーズ